

2024年3月期
決算説明資料

日本信号株式会社（証券コード：6741）

2024年5月14日



Copyright © NIPPON SIGNAL CO.,LTD.
All Rights Reserved.



日本信号株式会社
NIPPON SIGNAL CO., LTD.

売上高・利益推移

2019/3月期～20/3月期は増収増益。

21/3月期以降、コロナ禍、半導体供給不足の影響を受けていたが、今期は回復に転じ増収増益を達成。

(単位：億円)	2018/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	前期比
売上高	837	998	1,116	927	850	854	985	+130
営業利益	20	70	89	57	53	51	68	+17
経常利益	29	79	96	64	65	59	78	+19
親会社株主に帰属 する当期純利益	20	53	65	49	45	40	53	+12

セグメント別①売上高・セグメント利益

- 交通運輸インフラ事業 : 鉄道信号の国際事業、J R向け売上が伸び、前期比で増収増益。
- ICTソリューション事業 : 国内A F C機器の更新需要、駐車場機器の需要回復で増収増益。

(単位：億円)	2022/3		2023/3		2024/3		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
交通運輸インフラ事業	488	52	470	51	539	62	+68	+10
ICTソリューション事業	362	33	384	33	446	39	+61	+6
全社費用	—	▲31	—	▲33	—	▲33	—	▲0
合計	850	53	854	51	985	68	+130	+17

セグメント別②受注高・売上高・受注残高

(単位：億円)	2023/3			2024/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
鉄道信号	541	394	543	748	466	825	+206	+71	+282
スマートモビリティ	75	75	7	81	73	16	+6	▲2	+8
交通運輸インフラ事業	616	470	550	830	539	841	+213	+68	+290
AFC	293	311	142	428	346	225	+134	+34	+82
R&S	79	72	18	126	99	45	+46	+27	+27
ICTソリューション事業	373	384	161	555	446	270	+181	+61	+109
合計	990	854	711	1,385	985	1,112	+395	+130	+400

鉄 道 信 号

国際事業で受注高大幅増となり、受注高・受注残高が過去最高。

ス マ ー ト モ ビ リ テ ィ

MVNOの拡販等による受注増。 ※MVNO(Mobile Virtual Network Operator) …回線提供サービス事業

A F C

自動改札機、券売機、精算機の更新需要、駐車場機器の需要回復により、受注、売上ともに増加。

R & S

センシング、グループ会社の医療機器関係が堅調に推移。受注、売上ともに増加。

セグメント別③国際事業の状況

(単位：億円)	2023/3			2024/3			前期比		
	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高	受注高	売上高	受注残高
海外鉄道信号	242	62	339	353	108	584	+110	+46	+244
海外AFC	41	11	48	0	6	42	▲40	▲4	▲6
海外合計	283	73	387	354	115	626	+70	+42	+238

海外鉄道信号▶ 台湾花東線、インド アーメダバードの大型受注を獲得した。

海外AFC▶ 売上はベトナム ホーチミン、インド アーメダバードなど。

海外全体▶ 大型案件の受注により、受注高は過去最高、受注残高は2年連続レコード更新。

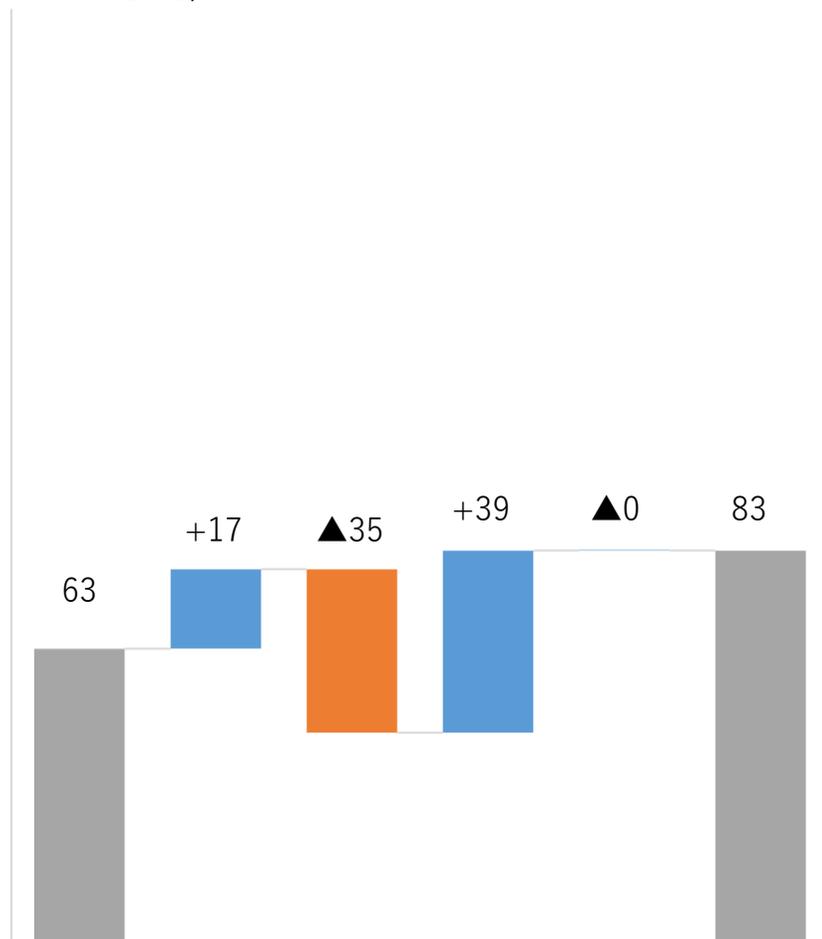
財政状況

(単位：億円)	2023/3	2024/3	
		実績	前期比
総資産	1,460	1,652	+192
売上債権・棚卸合計	856	958	+102
有利子負債	175	187	+11
自己資本	893	968	+74
売上債権・棚卸比率	58.6%	58.0%	▲0.6pt
有利子負債比率	12.0%	11.3%	▲0.7pt
自己資本比率	61.2%	58.6%	▲2.6pt

キャッシュフロー計算書

契約負債の増加等により、現金及び現金同等物の期末残高は117億円となった。

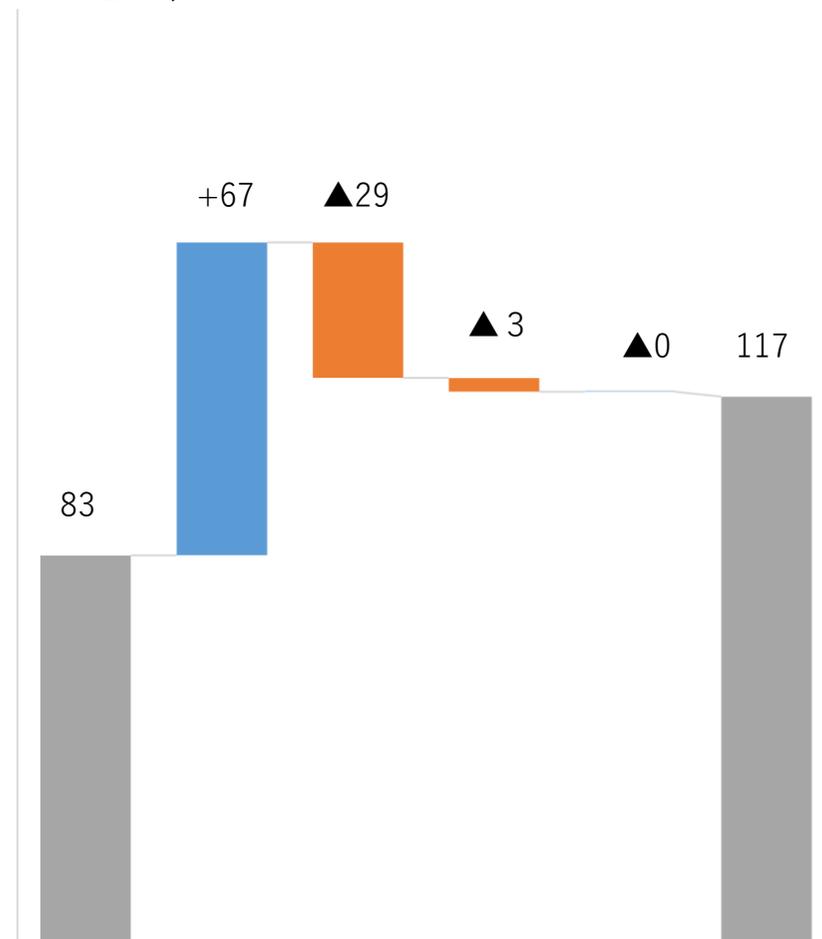
(単位：億円)



期首残高 営業活動 投資活動 財務活動 換算差額 期末残高

2023/3

(単位：億円)

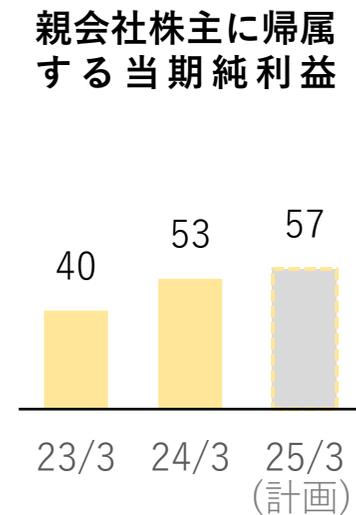
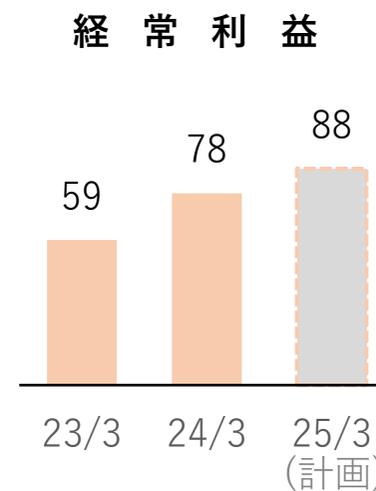
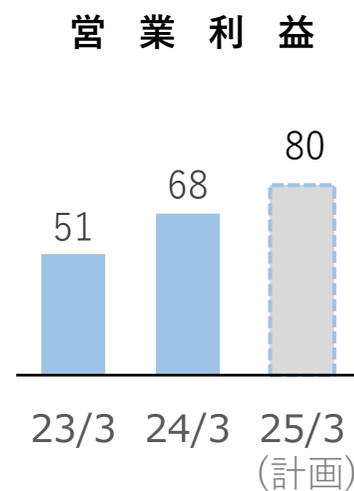
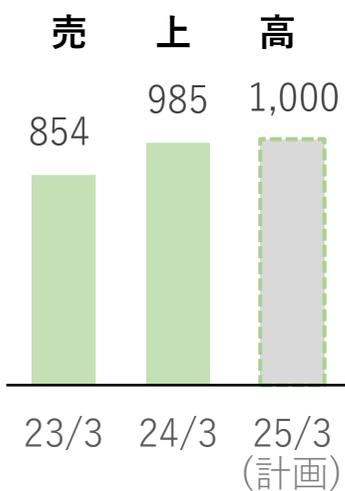


期首残高 営業活動 投資活動 財務活動 換算差額 期末残高

2024/3

2025年3月期通期計画 計画

(単位：億円)	2023/3	2024/3	2025/3	
			計画	前期比
売上高	854	985	1,000	+14
営業利益	51	68	80	+11
経常利益	59	78	88	+9
親会社株主に帰属 する当期純利益	40	53	57	+3



受注高・売上高推移（鉄道信号）計画

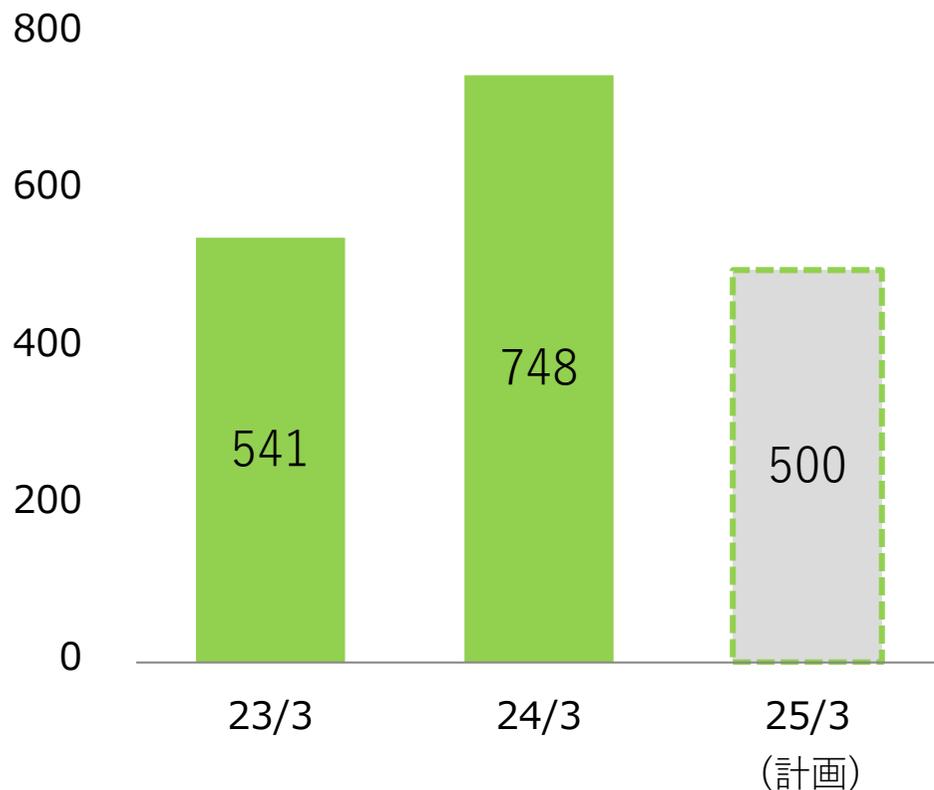
鉄道信号事業

既存の信号保安装置を活用した自動運転システムの開発、保守点検の省力化実現を目指す。また、アジア諸国のインフラ需要に応え、交通インフラによる快適で安全な街づくりに貢献。

主な事業内容：自動列車制御装置（ATC）、無線式列車制御システム（SPARCS）ほか

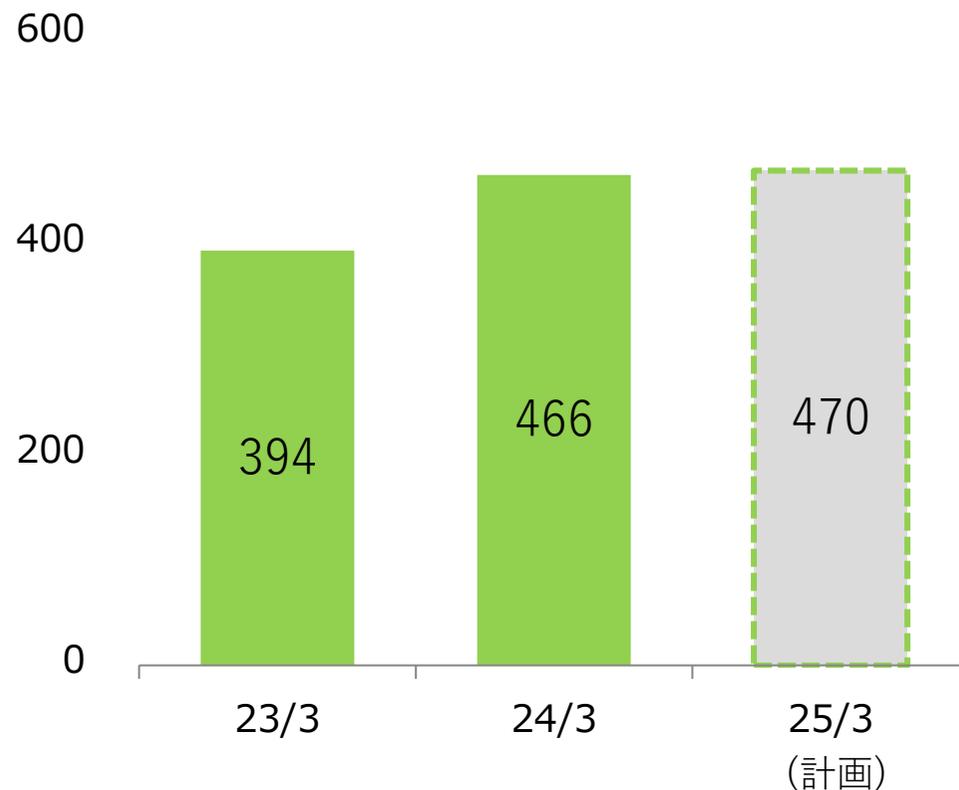
受注高

(億円)



売上高

(億円)



受注高・売上高推移（スマートモビリティ）計画

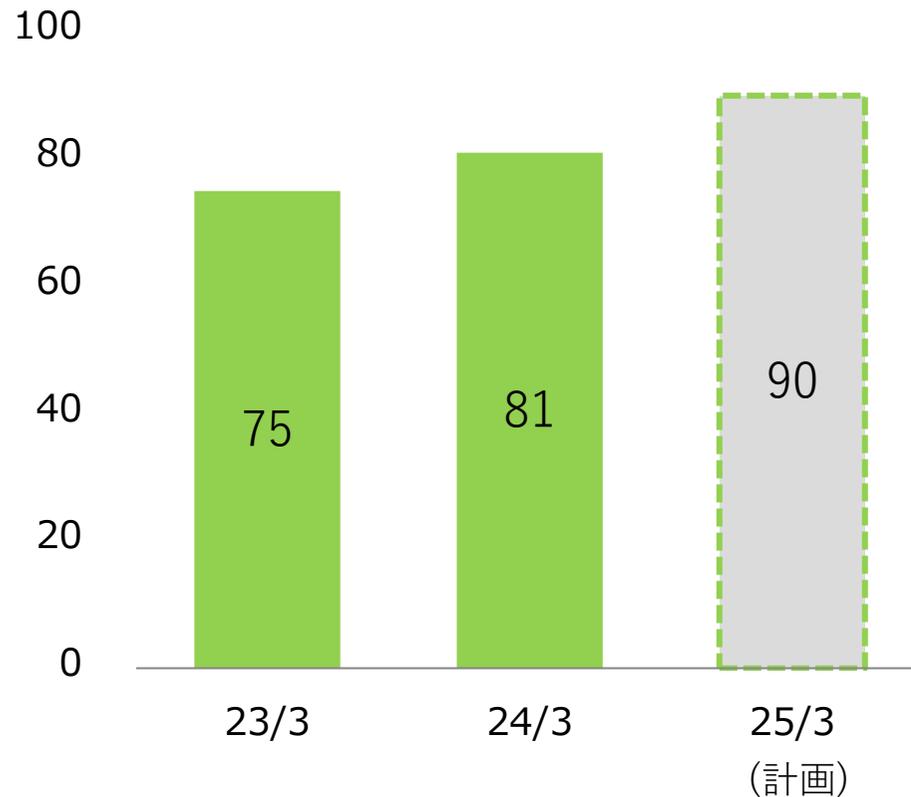
スマートモビリティ事業

自動運転関連サービスの実現に向けた取り組みや、MVNO（回線提供サービス事業）による設備の無線化等の新たなソリューションビジネスを展開。

主な事業内容：交通管制システム、交通信号制御機・灯器 ほか

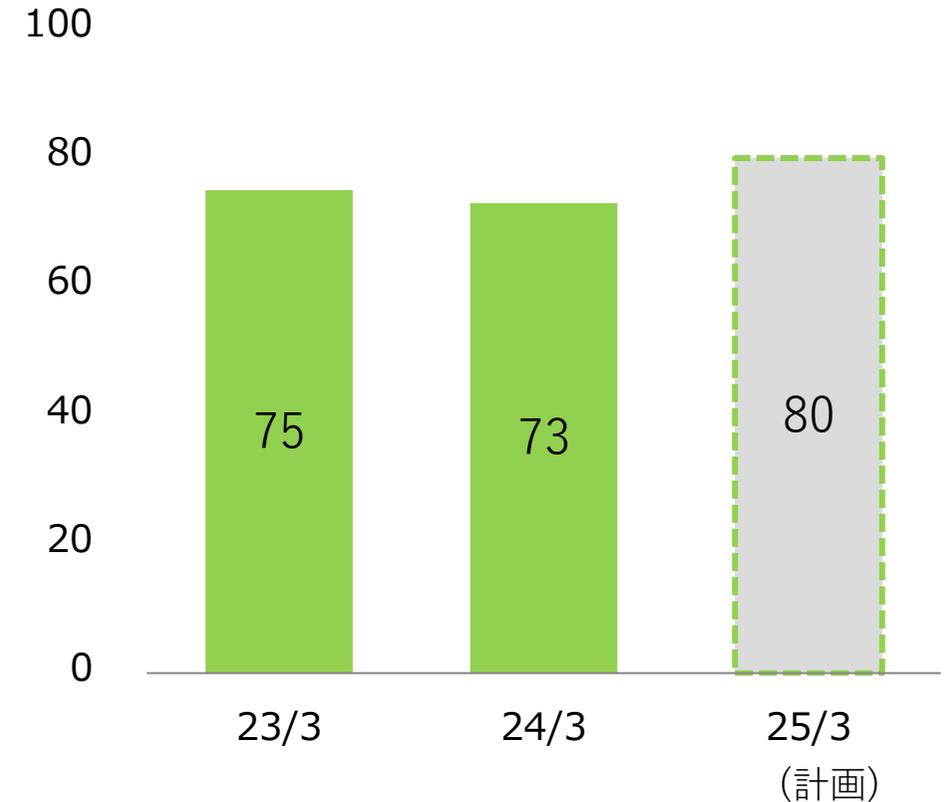
受注高

(億円)



売上高

(億円)



受注高・売上高推移 (AFC) 計画

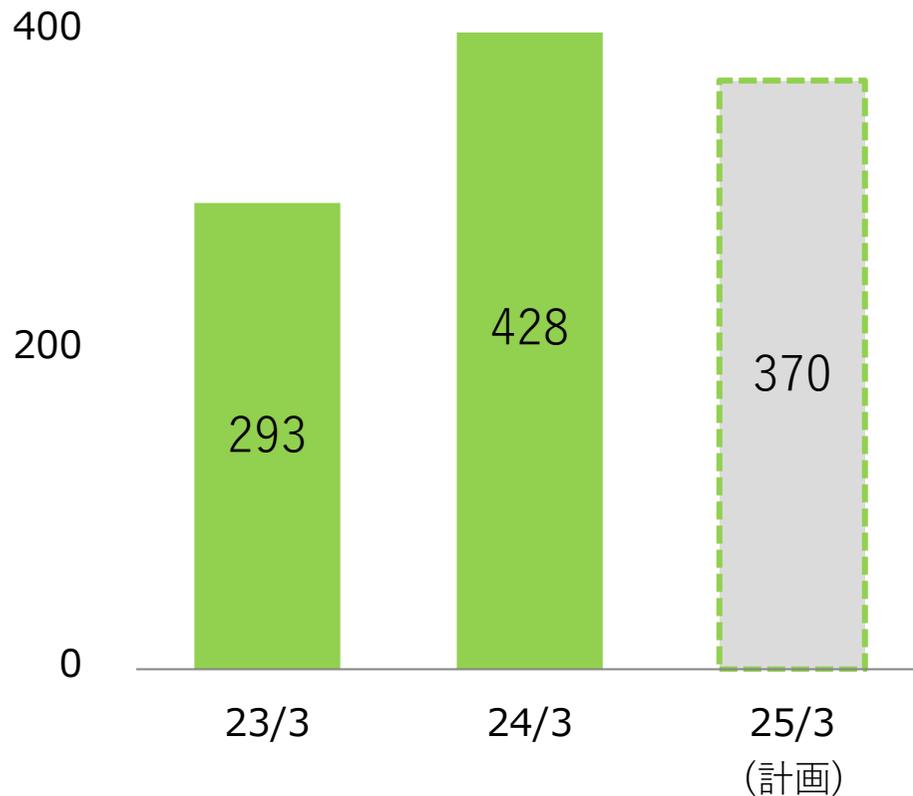
A F C 事業

スマートモビリティ社会における決済システムに対応した新製品の提供や、サービス連携プラットフォーム「iDONEO」を用いた様々な端末との連携サービスの提供。

主な事業内容：自動改札機、ホームドア、駐車場管理システム ほか

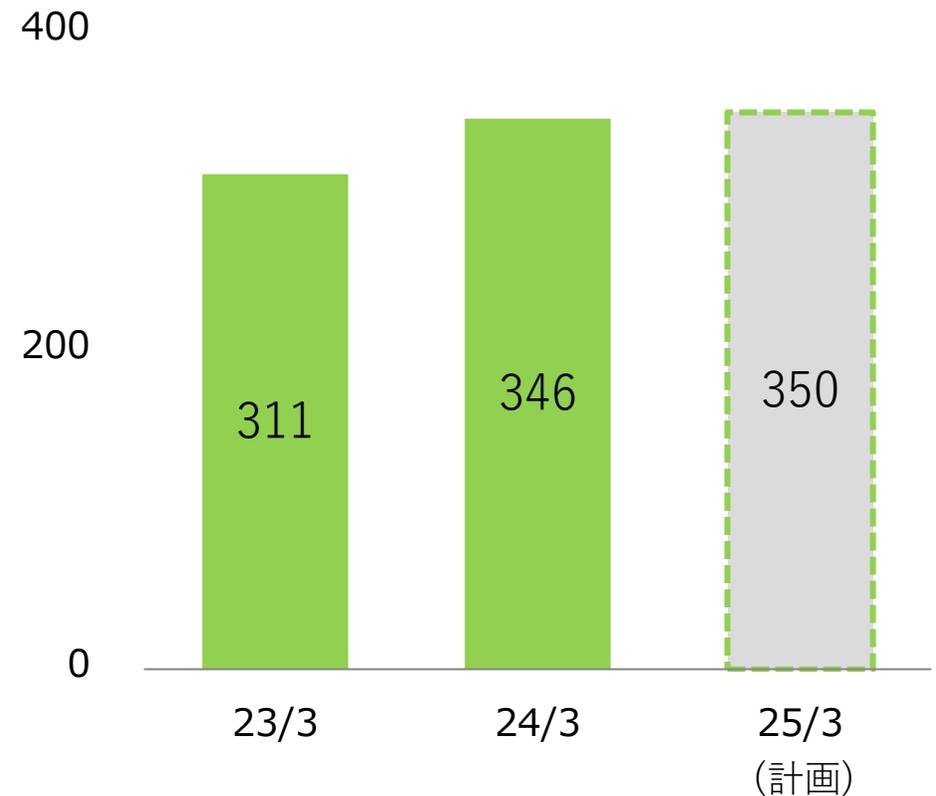
受注高

(億円)



売上高

(億円)



受注高・売上高推移 (R&S) 計画

R & S 事業

センサ、画像分析等のコア技術に最新のロボティクス技術を融合させ、人とロボットが協働する未来社会の実現に貢献。

※R&S・・・Robotics (ロボティクス) & Sensing (センシング)

主な事業内容：ロボティクス、3D距離画像センサ ほか

受注高

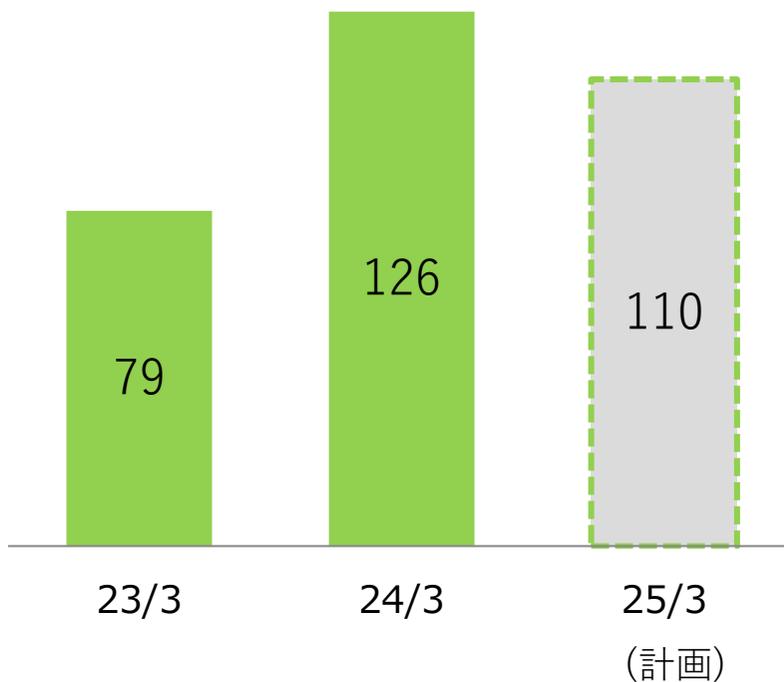
(億円)

150

100

50

0



売上高

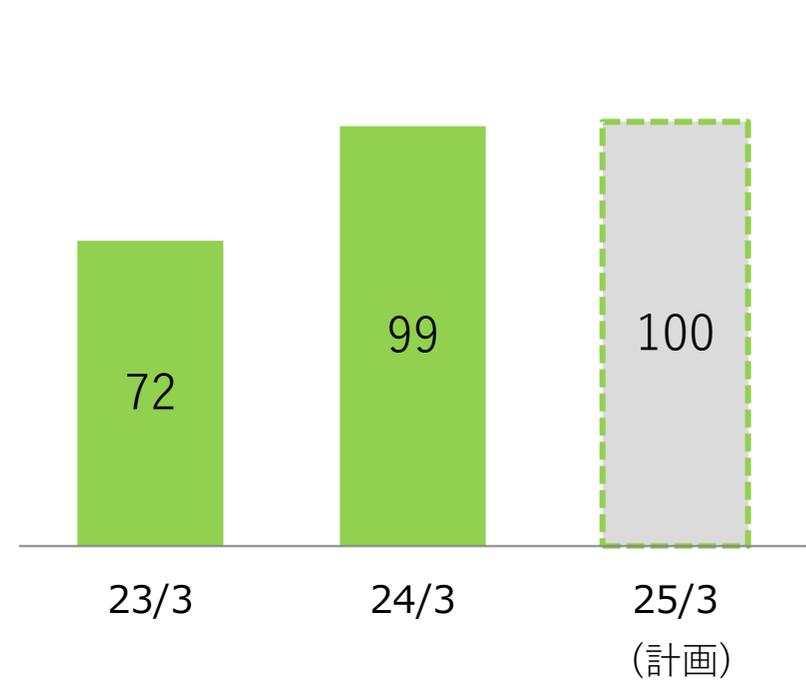
(億円)

150

100

50

0

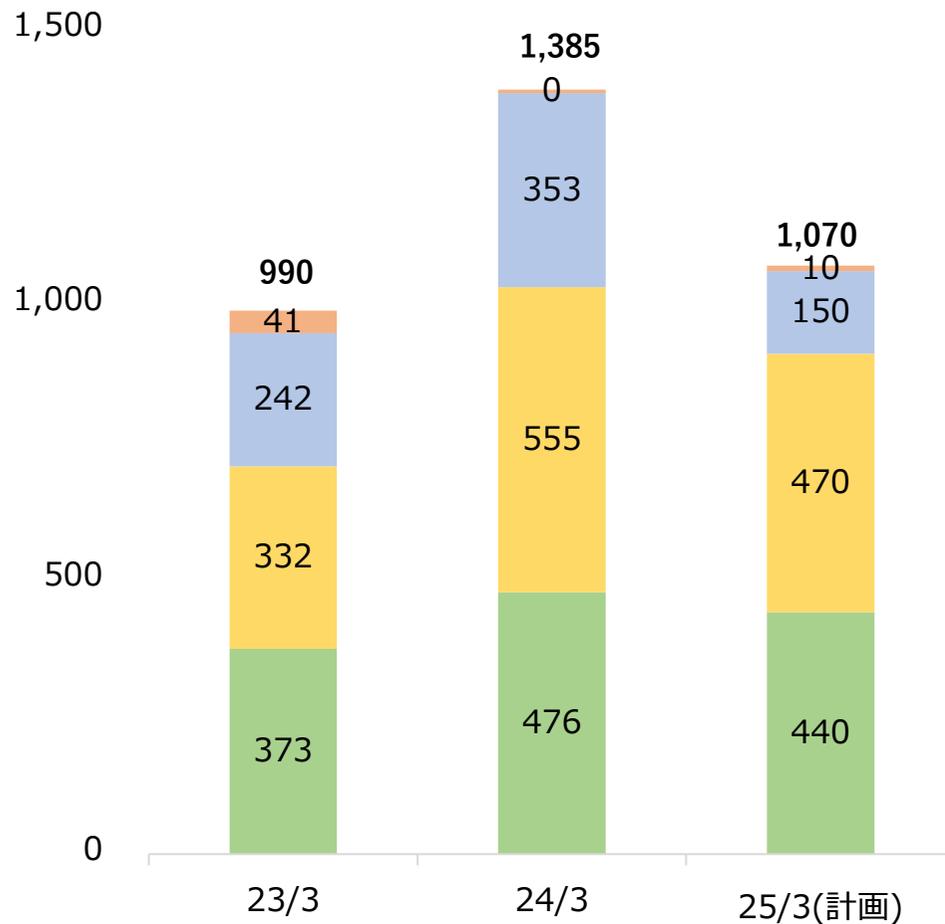


受注高・売上高推移（国内・国際事業別）

計画

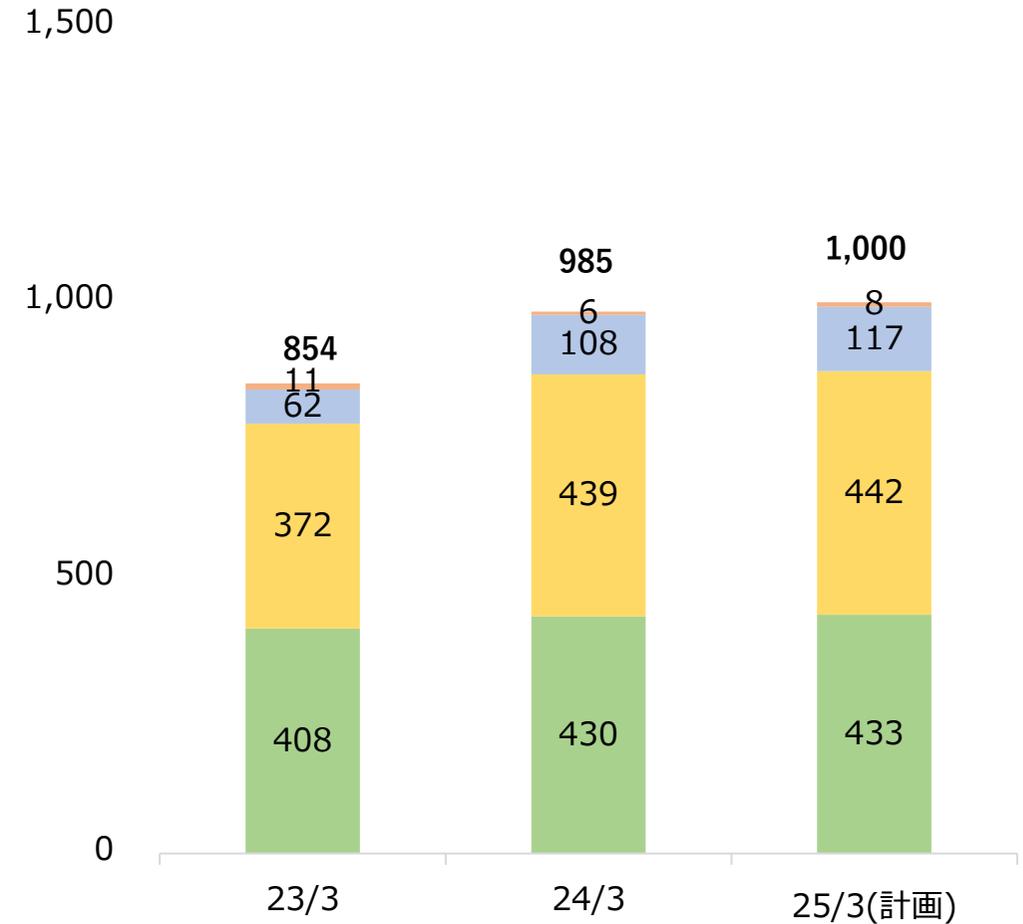
受注高

(億円)



売上高

(億円)



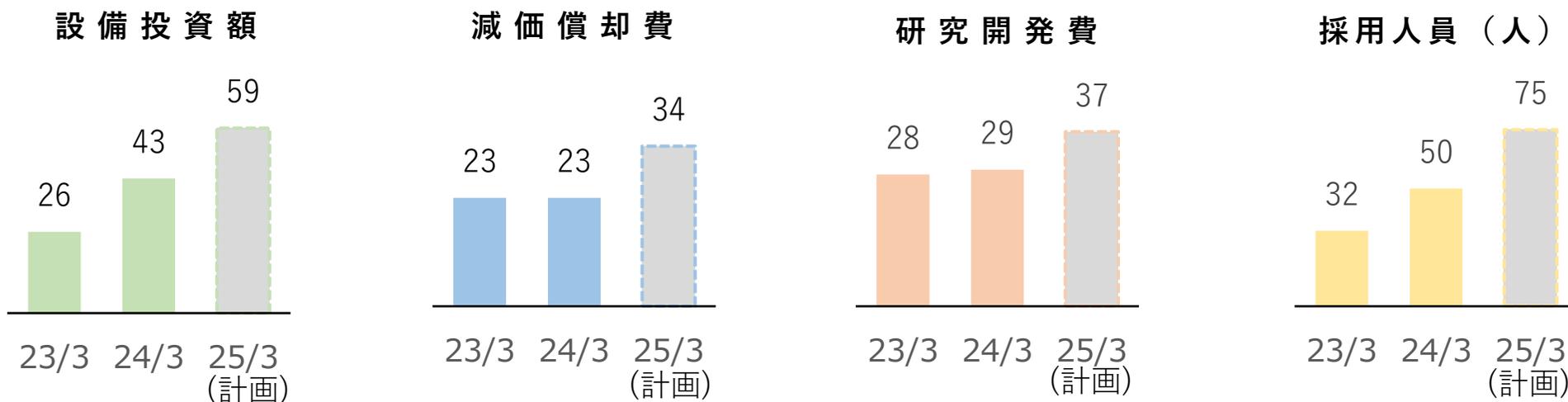
セグメント別利益 計画

(単位：億円)	2023/3	2024/3	2025/3	
			計画	前期比
交通運輸 インフラ事業	51	62	65	+2
ICTソリューション 事業	33	39	50	+10
全社費用	▲ 33	▲ 33	▲ 35	▲ 1
合計	51	68	80	+11

投資関係

(単位：億円)	2023/3	2024/3	2025/3	
			計画	前期比
設備投資額	26	43	59	+16
減価償却費	23	23	34	+10
研究開発費	28	29	37	+7
採用人員 (人) ※	32	50	75	+25

※採用人員は当社単体

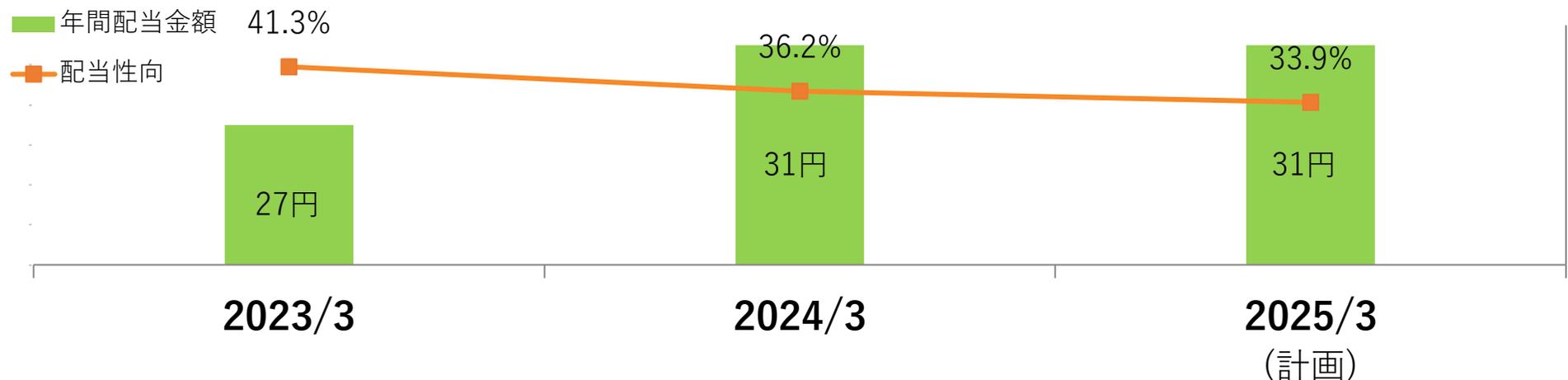


利益還元（配当金）について

- 配当について、株主の皆さまへの利益還元強化を図るため、原則として、連結配当性向30%以上、下限指標D O E 2.0%を当面の目標と設定。
上記の基本方針に基づき2024年3月期は年間配当31円、2025年3月期は年間配当31円。

2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期(計画)
年間27円	年間31円	年間31円
第2四半期末 7円 期 末 20円	第2四半期末 7円 期 末 24円	第2四半期末 10円 期 末 21円
配当性向 41.3% 配当利回り 2.54%	配当性向 36.2% 配当利回り 2.99%	配当性向 33.9%

※配当利回りは年間配当金÷期末株価で算出



香椎線・鹿児島本線にて2つの「自動運転」開始

香椎線にてGOA※2.5自動運転開始、
鹿児島本線にてGOA2.0の自動列車運転支援装置の実証運転開始



適用可能路線数

GOA 2.5 … **24** 路線

GOA 2.0 … **37** 路線

※GOA 2.5 適用可能路線も含む
(日本国内)

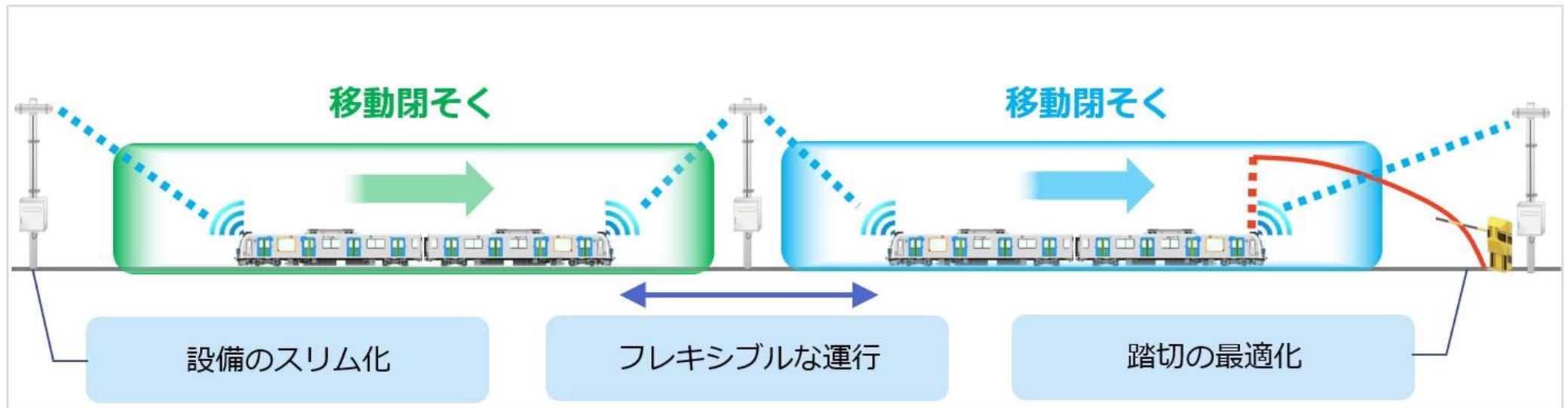
芳賀・宇都宮LRT（ライトライン）開業

鉄道信号システムをすべて当社が納入
LRT側設備と連動する「列車連動制御機」を導入



西武多摩川線 無線式列車制御(CBTC)システムの走行試験を開始

安全かつ効率的な列車の運行を実現
踏切の遮断時間を最適化

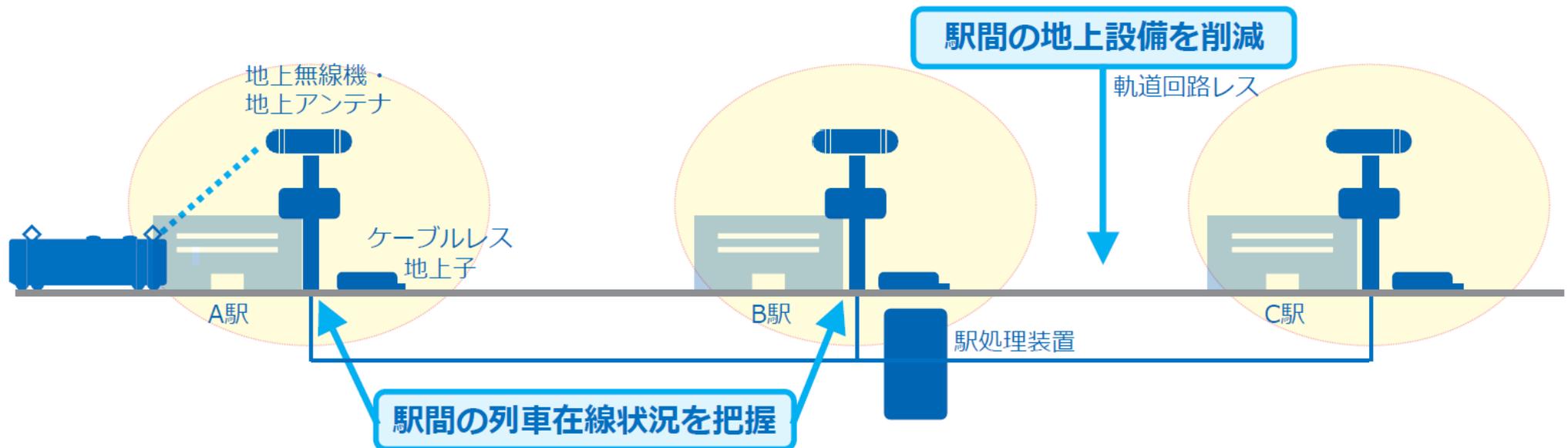


※C B T C (Communications-Based Train Control)

…軌道回路等の閉塞によらず、無線により地上車上間で大容量データを通信し、列車を制御および防護するシステム

地方鉄道向け無線式列車制御システムの走行試験を実施

軌道回路等の地上設備を削減することにより保守点検の省力化を行うことで、永続的な地方鉄道の運営に寄与

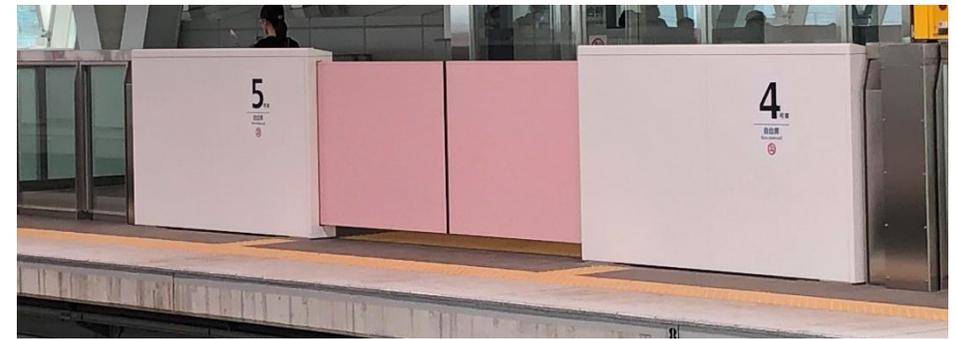


北陸新幹線 金沢－敦賀間延伸開業

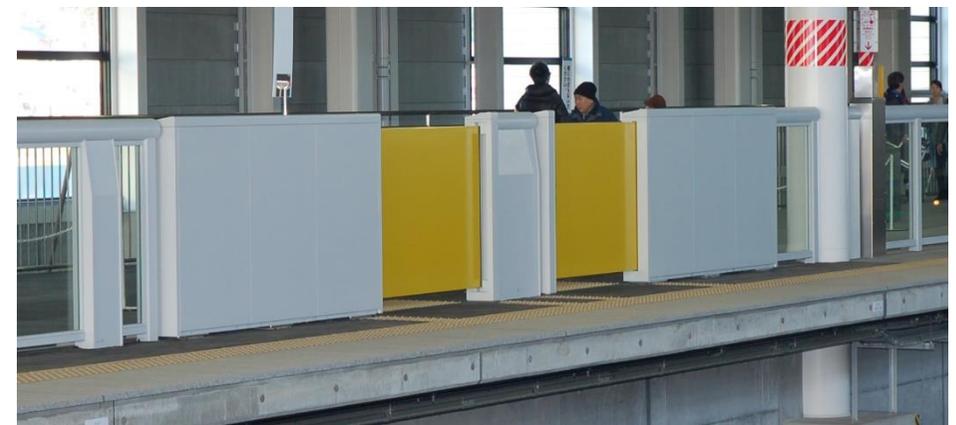
延伸に伴い、信号装置とホームドアを納入



北陸新幹線



西九州新幹線



北海道新幹線

バリアフリー対策でのホームドアの受注増



軽量型ホームドア（JR九州 九大学研都市駅）



軽量型ホームドア（西武 国分寺駅）



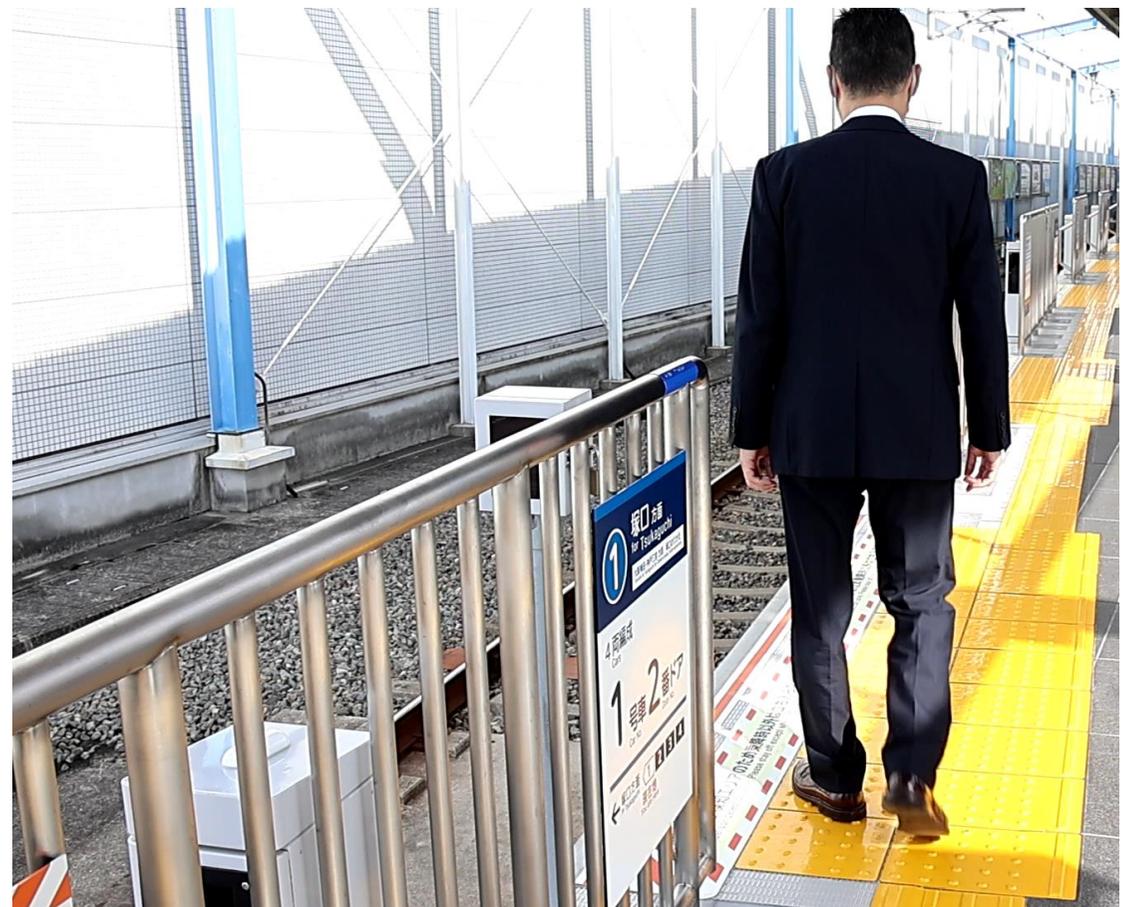
昇降式ホームドア（近鉄 鶴橋駅）



昇降式ホームドア（JR西日本 三ノ宮駅）

阪急電鉄 ホーム監視システム運用開始

使用する検知センサは全て当社製
外乱光の影響に強いFX10シリーズを採用



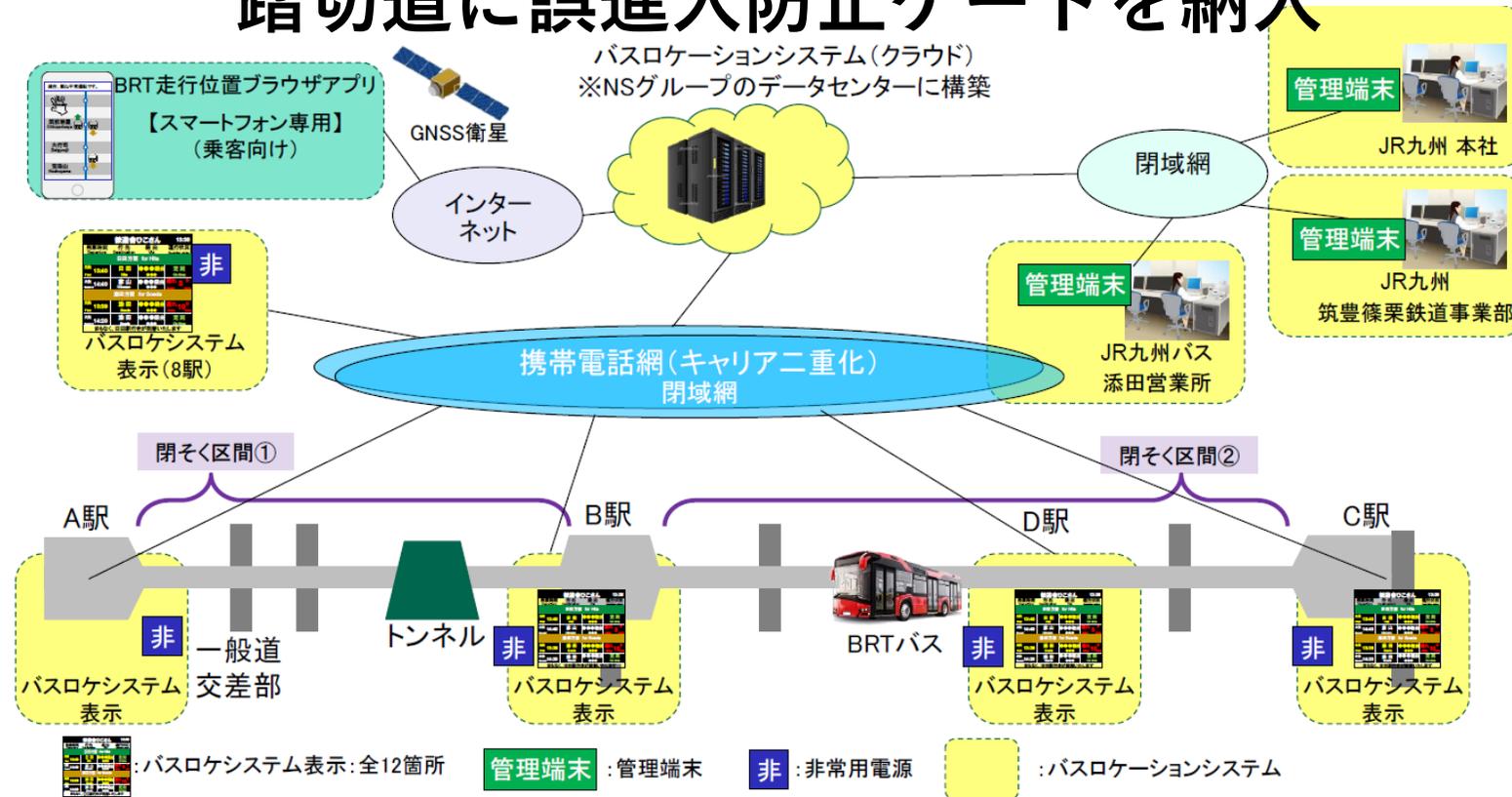
EMV・QR決済対応改札機の拡販

タッチ決済対応のカードやスマートフォン等による
鉄道乗車は2020年から約80社で導入（検討中も含む）



BRTひこぼしライン開業

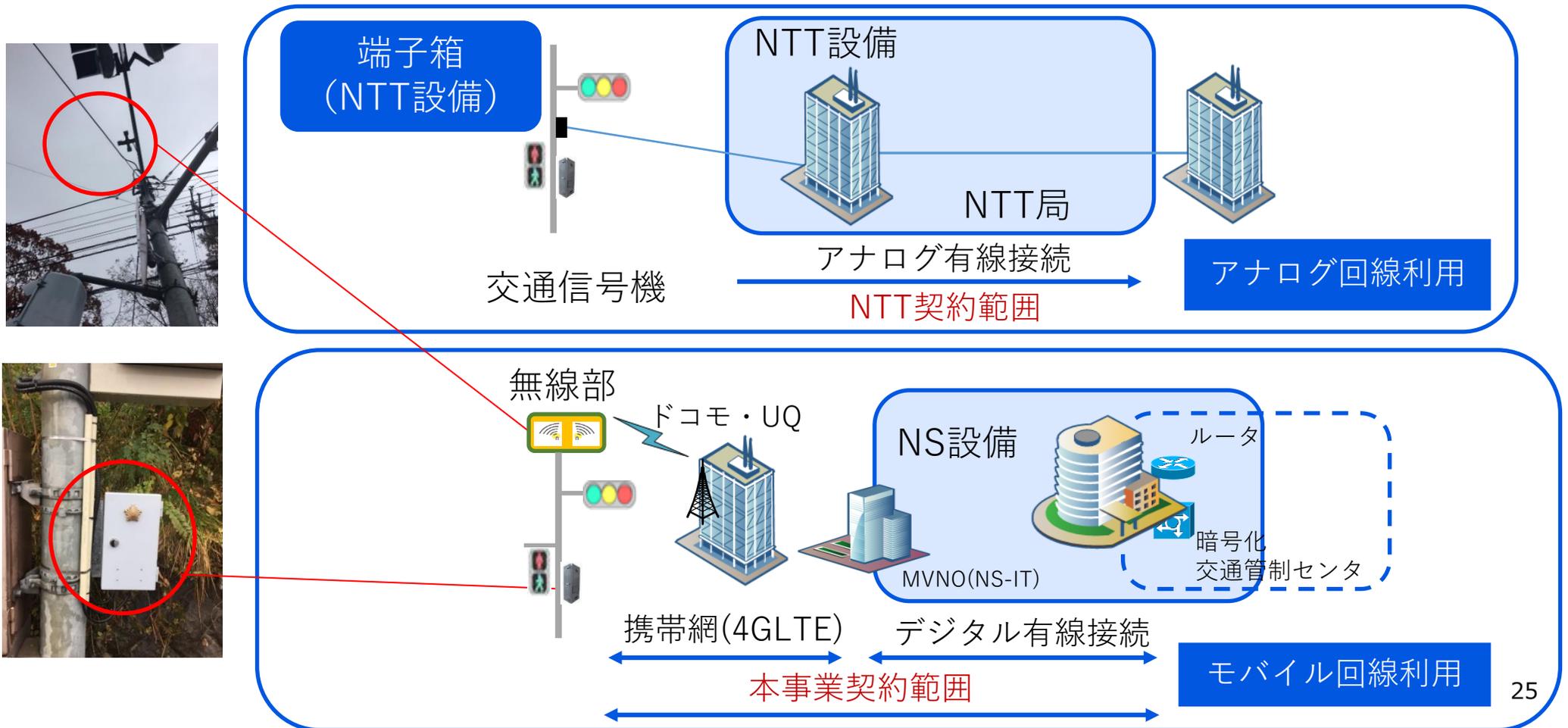
バスロケーションシステム、サイネージ、
バス専用道区間における交互通行を制御する通行権制御システム、
踏切道に誤進入防止ゲートを納入



※BRT (Bus Rapid Transit) …バス高速輸送システム

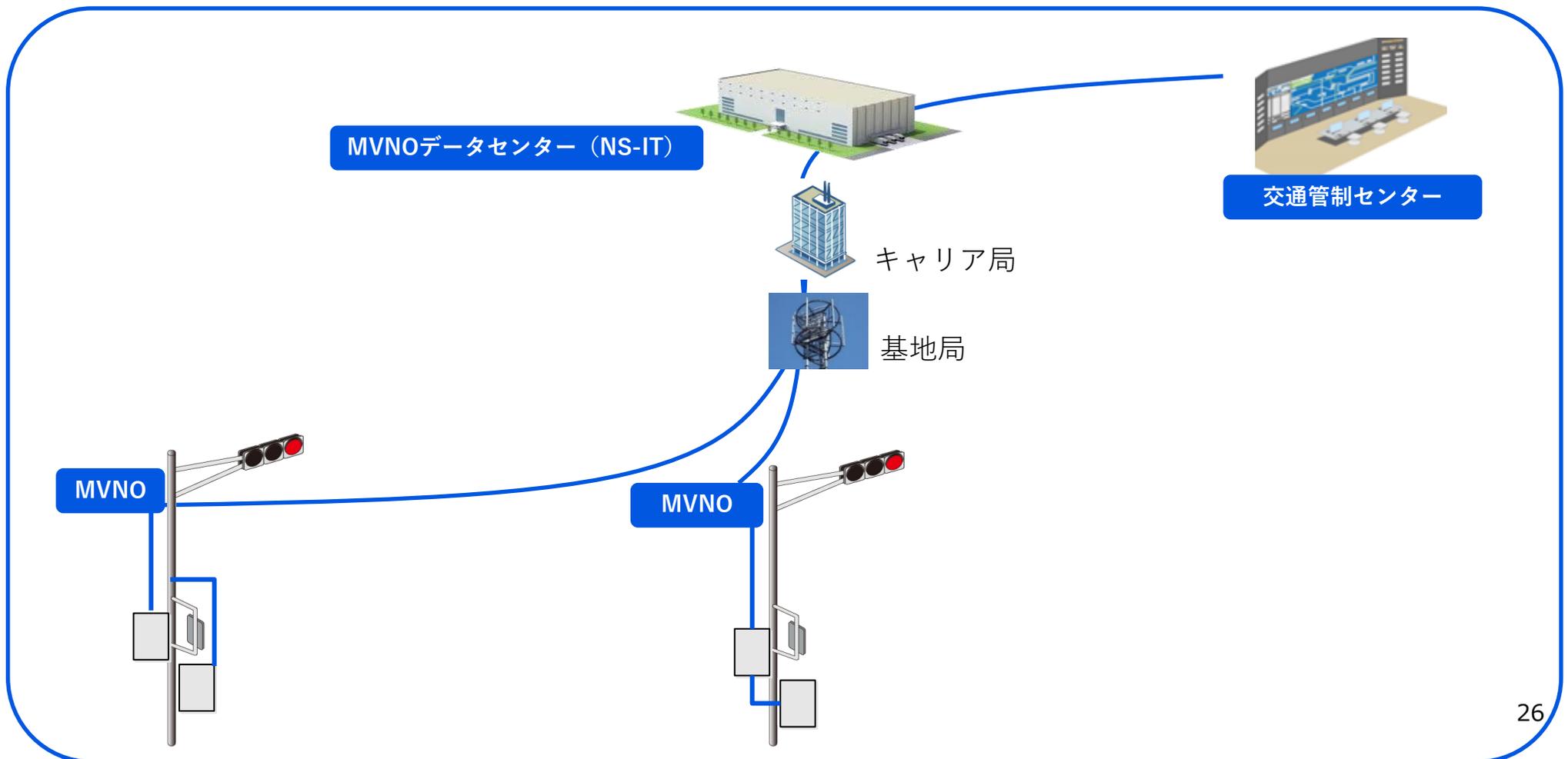
MVNOサービス

交通信号制御機関の通信を有線から無線化した 専用ネットワーク網の構築と、回線提供サービス事業



MVNOサービス

交差点での映像をMVNOで交通管制センターに送信し、
渋滞緩和、交通事故防止に活用



秋田県警察本部 交通状況表示板

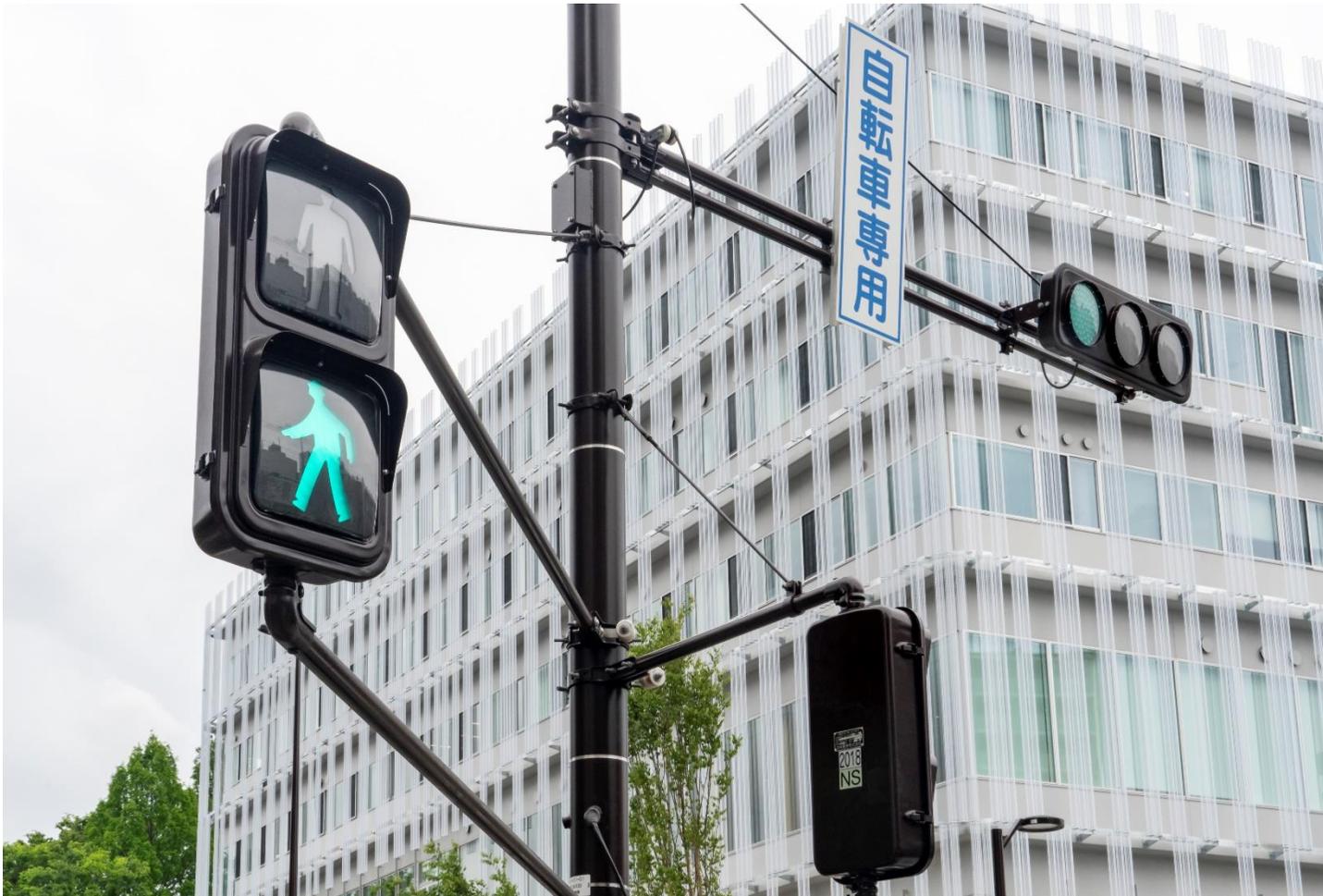
設置したカメラ映像、県内の交通状況を示した地図を表示



2028年 交通信号機のLED化100%

LED化により750.5Whの電力削減が可能

※前提条件：一般的な車両灯器6灯、歩行者灯器8灯設置交差点



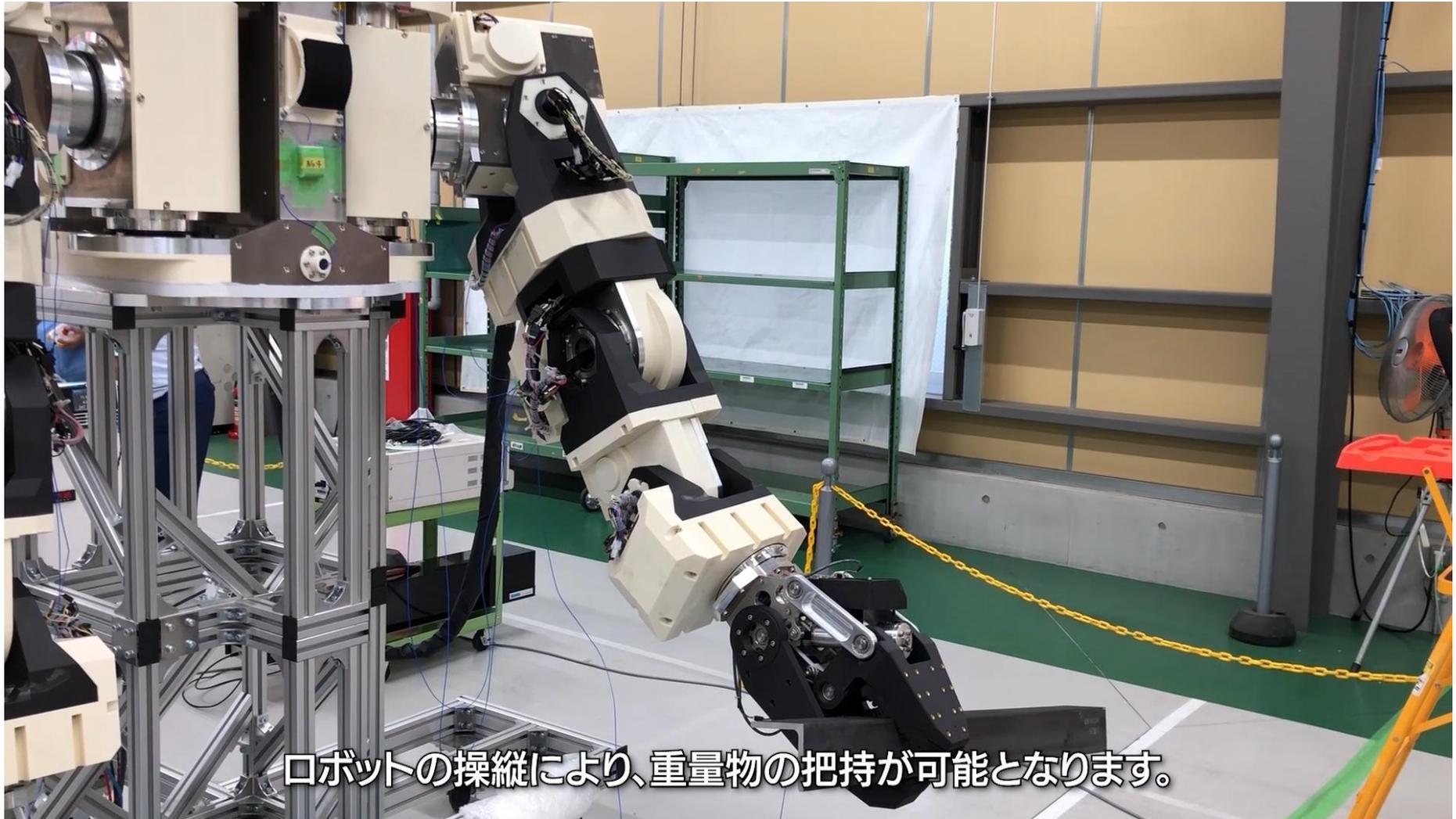
G7 三重・伊勢志摩交通大臣会合 セキュリティ機器の協力



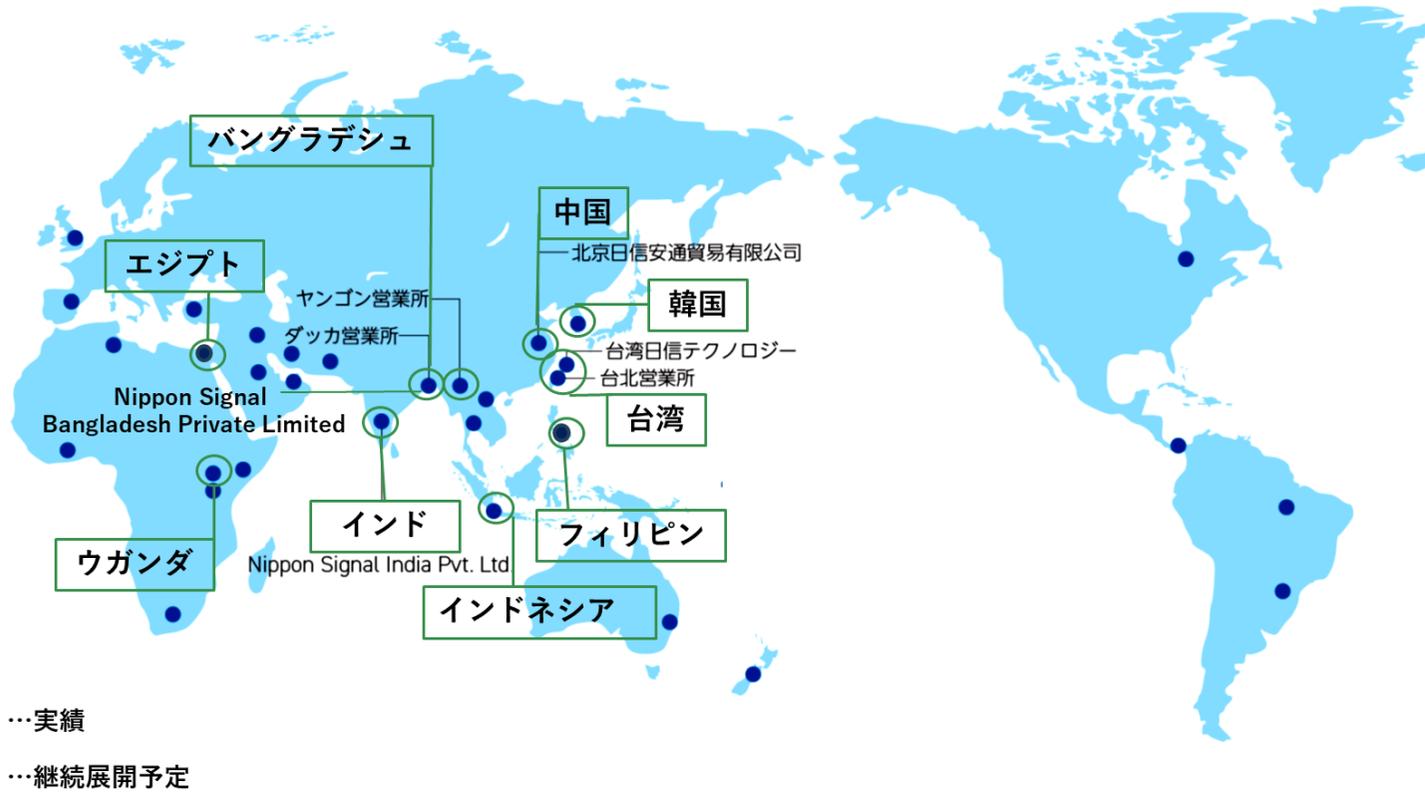
G7 三重・伊勢志摩交通大臣会合 多機能鉄道重機を展示



多機能鉄道重機 実用化に向けて



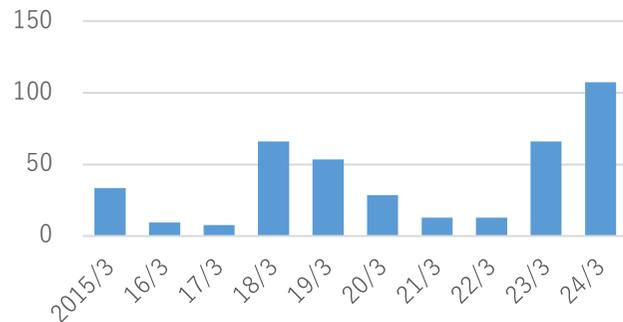
ロボットの操縦により、重量物の把持が可能となります。



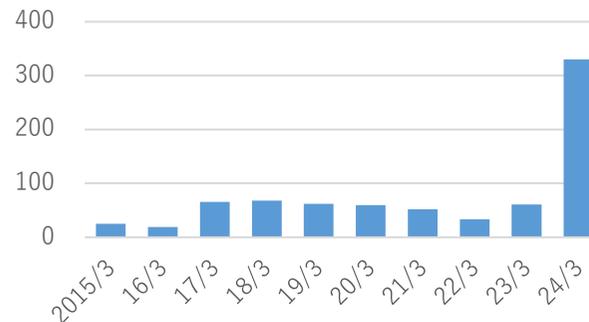
受注残推移

(単位：億円)

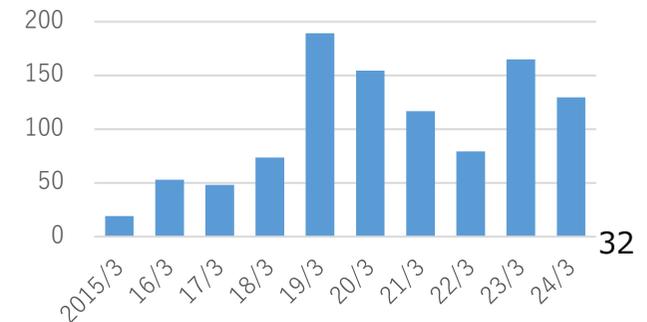
インド



台湾



東南アジア



台湾 花東線複線化 設備更新・改修事業を受注

台湾東部の輸送力増強を目的とした
花東線（花蓮～知本間）を複線化する工事



台湾北東部から内陸部を走る車両（平溪線）

台湾での市場拡大



アーメダバード・メトロ事業(第2期区間) 信号システム受注

無線式列車制御システムSPARCS、
電子連動装置、現場機器等を納入



ジャカルタ都市高速鉄道事業(第2期区間) 信号システム受注 無線式列車制御システム SPARCS、電子連動装置、 PID※システム、現場機器等を納入



ウガンダ交通信号システム受注

既設 13 か所に加え、新たに 25 交差点設置



ベンガルール都市圏向け交通信号システム

29箇所の交差点に設置する信号灯器、信号制御機、
交通流を計測する車両感知器、及び中央装置を納入



100%グリーン電力での稼働を目指す

2023年5月までに、以下の製造拠点で、
グリーン電力の切替が完了

	グリーン電力 調達開始	2023年度の 電力使用量(MWh)	2023年度排出 削減されたCO2(t)※
久喜事業所	2022年10月	2,870	1,407
上尾工場	2022年10月	783	384
宇都宮事業所	2023年5月	2,494	1,222
日信特器(株)	2022年3月	215	92
朝日電気(株)	2023年1月	95	47
山形日信電子(株)	2023年4月	752	344

※グリーン電力導入後の使用電力量に、グリーン電力導入前プランの排出係数を掛けた値

日信電子サービス リペアセンターの取組み

各鉄道事業者で稼働している鉄道信号設備の故障品を
リペアセンターでリサイクルし、鉄道事業者様へ返却



業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、これらの予想とは大きく異なる可能性があります。